

伊豆東部火山群の火山活動解説資料（令和元年6月）

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙など表面現象の状況（図1）

大原及び大崎監視カメラによる観測では、噴煙などの表面現象は認められません。

・ 地震や微動の発生状況（図2、図3-①）

24日19時22分に伊豆半島東方沖を震源とするマグニチュード¹⁾4.1（暫定値）の地震が発生し、熱海市網代で最大震度4を観測しました。また、同日22時25分にも伊豆半島東方沖を震源とするマグニチュード¹⁾2.3（暫定値）の地震が発生し、熱海市網代で最大震度2を観測しました。これらの地震の後26日にかけて、周辺で地震が一時的に増加しましたが、その後は低調に経過しました。その他の期間は、概ね静穏に経過しました。

火山性微動は観測されていません。

・ 地殻変動の状況（図3-②~⑧、図4）

GNSS連続観測では、火山活動によるとみられる変動は認められません。

体積ひずみ計や傾斜計による地殻変動観測では、火山活動によるとみられる変化は認められません。

1) マグニチュード（M）は地震の規模を表します。この値は暫定値で、後日変更することがあります。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。

次回の火山活動解説資料（令和元年7月分）は令和元年8月8日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所及び公益財団法人地震予知総合研究振興会のデータも利用して作成しています。

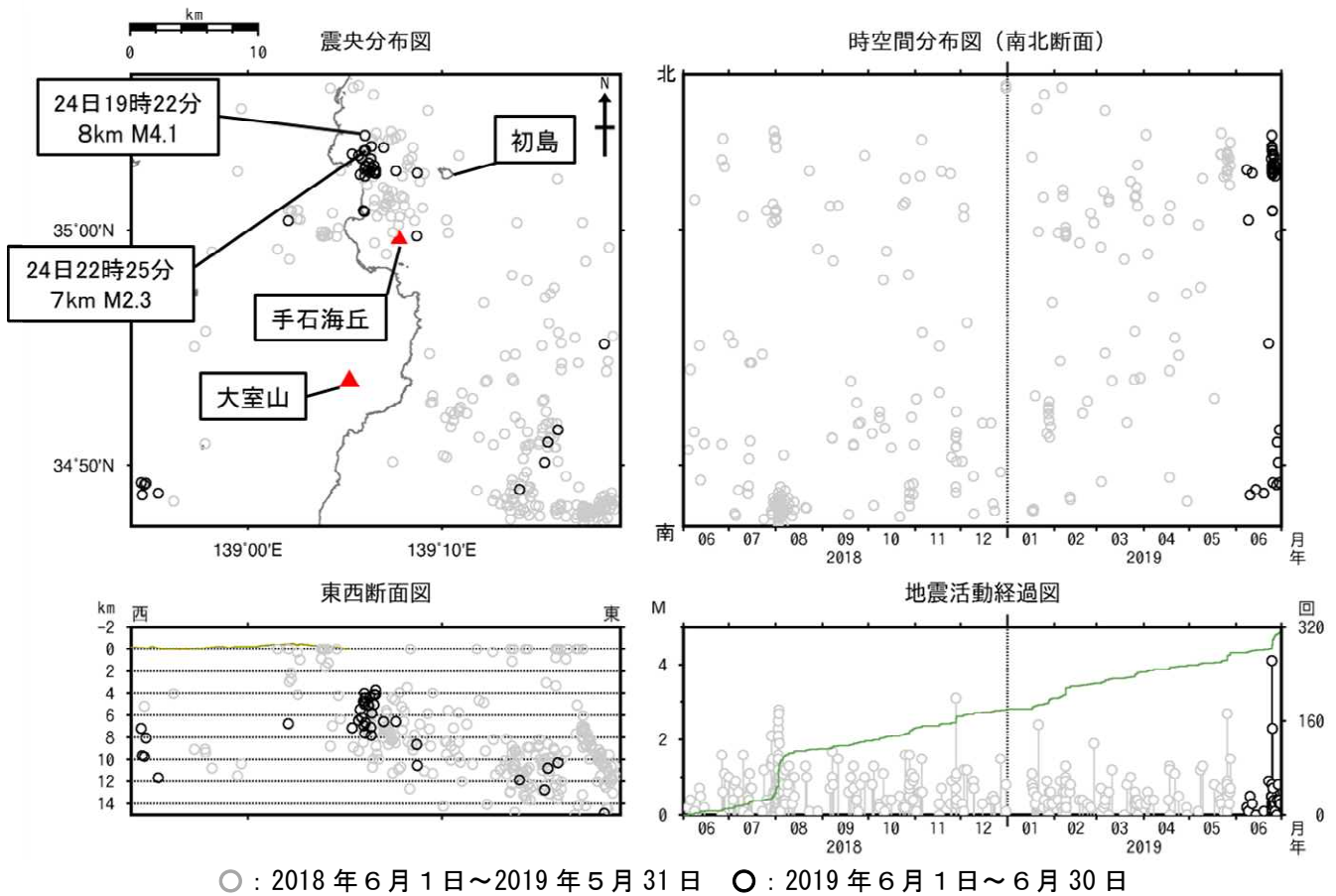
本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警戒等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。



図1 伊豆東部火山群 伊東市沖の状況
 （左図：6月5日 大原監視カメラ、右図：6月5日 大崎監視カメラによる）



○：2018年6月1日～2019年5月31日 ○：2019年6月1日～6月30日

図2 伊豆東部火山群 広域地震観測網による震源分布図（2018年6月1日～2019年6月30日）

広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。

M（マグニチュード）は地震の規模を表します。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

・24日19時22分に伊豆半島東方沖を震源とするマグニチュード4.1（暫定値）の地震が発生し、熱海市網代で最大震度4を観測しました。また、同日22時25分にも伊豆半島東方沖を震源とするマグニチュード2.3（暫定値）の地震が発生し、熱海市網代で最大震度2を観測しました。その後、26日にかけて、周辺で地震が一時的に増加しましたが、その後は低調に経過しました。

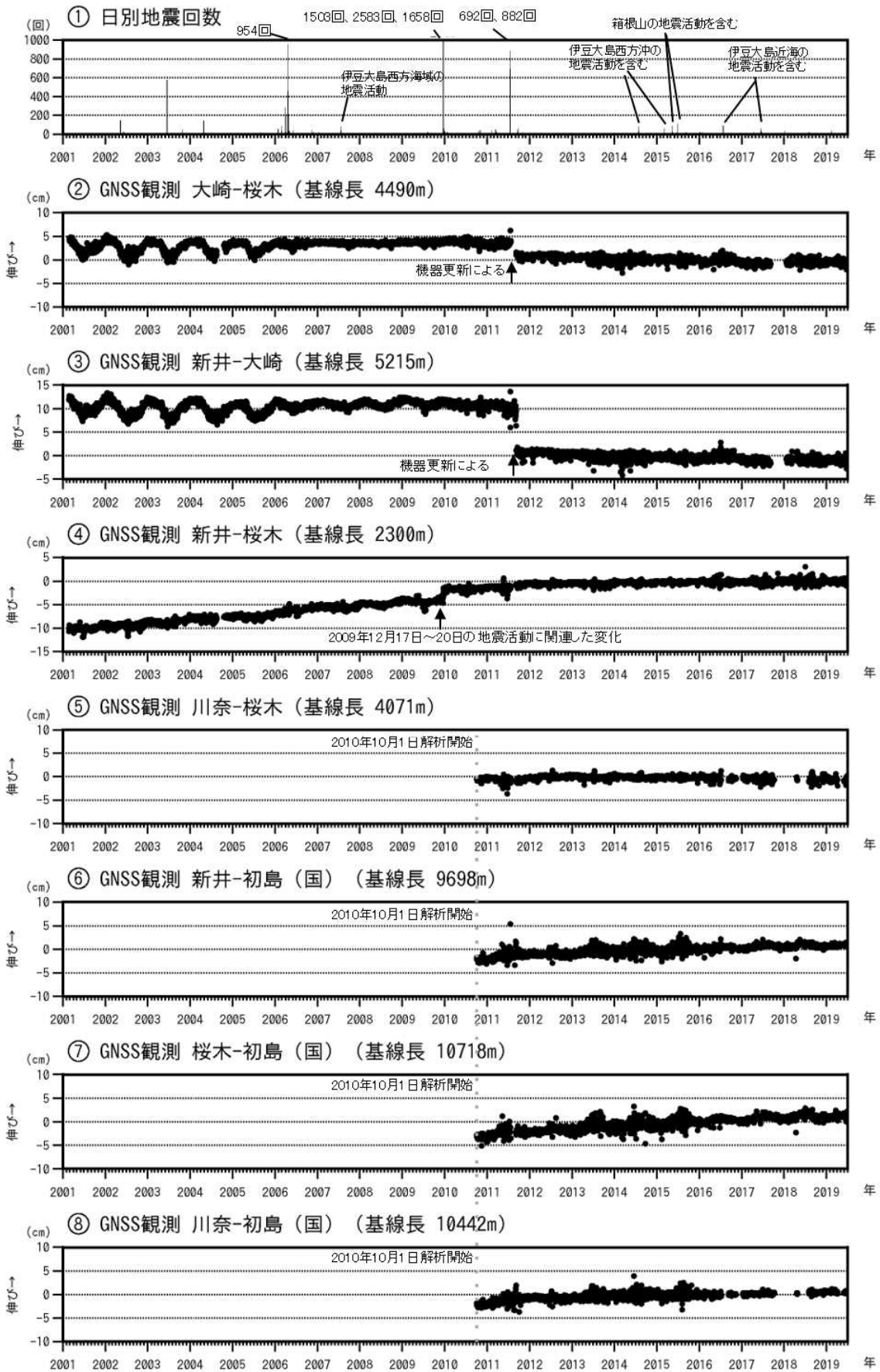
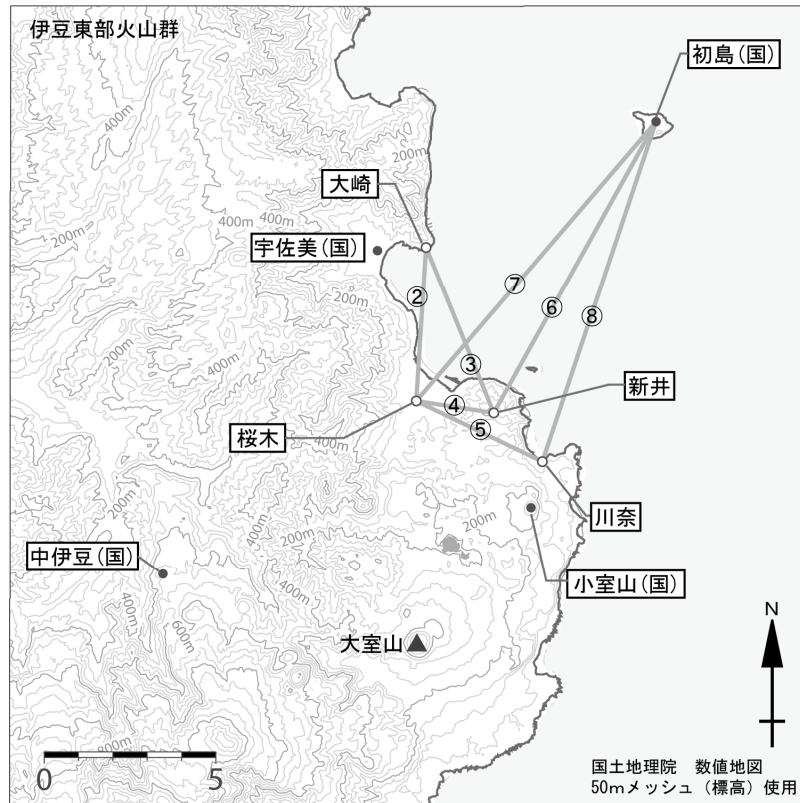


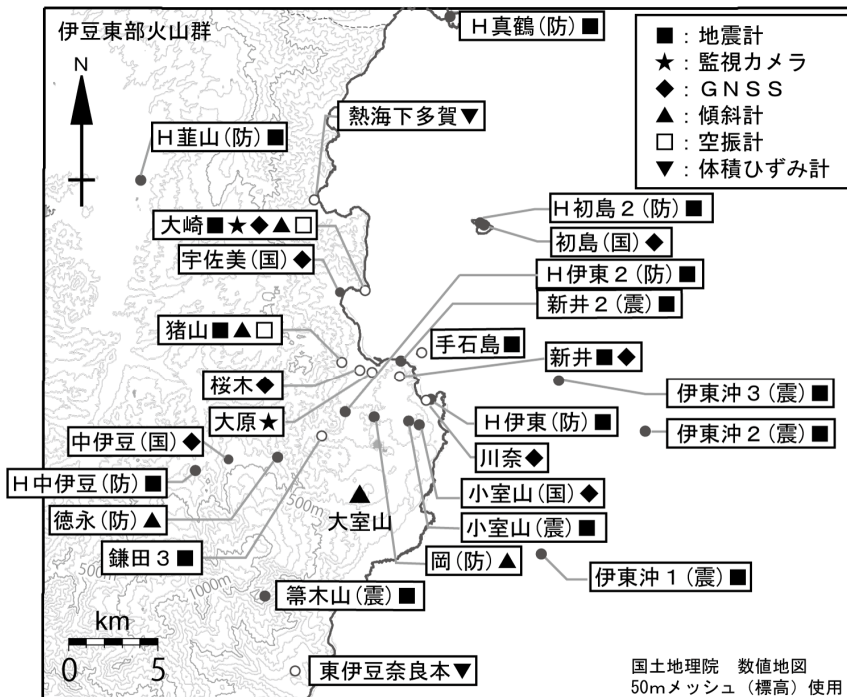
図3 伊豆東部火山群 火山活動経過図（2001年1月1日～2019年6月30日）

①：2012年7月23日までは鎌田2、それ以降は鎌田3地震観測点による。
 ②～⑧：(国)：国土地理院。図4のGNSS基線②～⑧に対応。グラフの空白部分は欠測。
 2010年10月及び2016年1月以降のデータについては、解析方法を変更しています。
 基線長変化に見られる周期的な変動は季節変動と考えられます。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示す。
（国）：国土地理院

図4 伊豆東部火山群 GNSS 連続観測点配置図
図中のGNSS基線②～⑧は図3の②～⑧に対応しています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
（国）：国土地理院、（防）：防災科学技術研究所、（震）：東京大学地震研究所

図5 伊豆東部火山群 観測点配置図